



<https://kansensho.jp/sp/article.html?id=IE00000418>

KGRIミニシンポジウム

冬期感染症対策について

～2020年東京オリンピックを見据えた感染症対策～

12月13日(金) 10:00～12:00

慶應義塾大学東館三田キャンパス G-Lab (問合せ先: yomiyat@keio.jp)

<開催趣旨>

今期はインフルエンザの流行傾向がすでに9月に始まるという、近年にはない感染症の異常事態にあります。当然ワクチンの準備は不十分であり、その中でどの様な対策を取れば最良かを考えなければいけない事態となっております。また、デング熱の定着が懸念されるなど、日本にとって感染症全般にわたっての対策が求められております。また、感染症の拡大に国際交流が関与しているのは間違いないことであり、早期のインフルエンザ対策は、間近となった2020年東京オリンピックにおける感染症対策にもつながるものと考えます。すでにAMR(多剤耐性菌問題)は日本の問題ではなく、世界的な問題となっておりますし、ISSでの薬剤耐性菌汚染の問題は、宇宙3法の施行を通じての、宇宙における感染症問題にもつながります。このような感染症対策が風雲急を告げる現状に鑑みて、このミニシンポジウムを企画いたしました。

<プログラム>

開会の挨拶(慶應義塾大学 青木節子)

日本におけるワクチン産業(バイオシュート株式会社 横手公幸)

感染症対策における安全保障上の管理(CISTEC 森本正宗)

感染症対策、特に薬剤耐性の問題点(慶應義塾大学 宮田善之)

<パネルディスカッション(総合討論)>

コーディネーター 青木節子



メールで登録すればどなたでも参加できます。

(登録URL: <https://forms.gle/9fuRFMkgquNRPLYe8>)

事前登録制

本シンポジウムはキャノンメディカルシステムズ様と松下善輔様のご支援で開催しております。

